

浅野水車町とも呼ぶことがある。古へ此の地に水車があつたから町名としたといふ。

ミツケキモイリ 見付肝煎 ↓キモイリ肝煎。

ミツケジマ 見付島 珠洲郡鶴岡の東南海上に在る。貞享二年加志波良比古神社由來書に『往昔國へ降臨の時初めて御見付被成候島を見付島と申、鶴岡村の沖に社立今以有之候。』とあり、能登名跡志には『見付島といふて大きな島あり。辨才天の社あり。三月十八日祭禮也。昔大同年中弘法大師歸朝の時、船中へ何くともなく法華經誦誦の聲聞ゆ。聲にしたがひ消寄せ給へば、今のみつき島に着きぬ。實は舟の着島といふ事なるべし。』と見える。

ミツゴ 三つ子 享和二年十月廿七日鹿島郡河崎村百姓半助の妻三子を擧げ、その一人は死亡したが、殘餘の二人に各一人扶持を給せられた。又文化十五年二月十八日藩士有澤才右衛門の長屋に住居する権内の妻が女子を擧げ、十九日夜更に男女各一人を擧げたに依つて、三月廿五日三人に各一人を給すること告げた。この際の命令に石川郡割出村頭振長四郎妻とあるのは、権内の實名であらう。

ミツコウジ 三小牛 ミツ 石川郡富樫庄にある部落。寛文十年の村御印には三小牛とし、正保・寛文・貞享の高辻帳には三小牛とする。龜尾記に、金銀鐵の精が三疋の牛となつて出たから村名を得たとし、三州名跡志には、芋掘藤五郎が三つの金牛を作つて埋めた地であるとしてゐる。

ミツコシジマ 水越島 鹿島郡能登島なる曲部濱の北方沖にある島。

ミツコシタケトシ 水越孟甫 通稱長進。八郎左衛門。正徳元年父權丞の遺知二百石を襲ぎ、大小將・表小將・同御番頭より次第に昇進して御小將頭に至り、明和元年百五十石を加へ、安永三年十月朔日六十四歳を以て歿。

ミツコシタダナホ 水越守直 通稱新次郎。三右衛門。父七丞の遺知三百石を襲ぎ、前田吉徳附御小將・同御附御先弓頭・御先御頭を経て、享保十年二百石を加へ、元文元年御歩頭となり、寛保二年指除、寛延二年五月廿七日七十歳を以て歿した。

ミツコシヌヒノスケ 水越縫殿助 もと越中の人。前田利家に來仕し、慶長五年利長の丹羽長重と浅井騷に戦つた時、松平久兵衛と一番鎧を争うて奮闘した爲、八月十二日軍勞を賞して褒書と短刀一鞘・黄金三枚を賜はつた。後條を加へて三千三百石(一に三千百石に作る)に至り、十九年八月歿した。

ミツゴハマ 三つ子濱 鳳至郡里の部落から東北白崎に至る間の砂濱。

ミツザンドウケン 密山道顯 石川郡曹洞宗大乘寺二十九代の住持。近江の人、業を海翁巡浦に受け、法を明州珠心に嗣ぎ、嘗て總持寺に瑞世し、後隆涼に寓した。元祿十二年大乘寺に晉んで開堂、寶永六年退院、河内の東福寺に隱居し、全性・寶泉・興大・泊船・大黒の五寺を開創し、元文元年十月十二日大黒寺にて寂した。齡八十五。大乘寺由來書の手記がある。

ミツシマ 水島 石川郡山島郷に在る部落。この地藩政時代の宿場であつた。

ミツシマタナマサ 水島苗雅 通稱右近。もと金澤神明宮の神主であつたが、延臣庭田

重條に仕へて有職の學に通じたから、享保四年六月三十人扶持を賜うて藩士に列せられた。後苗雅緒紳家に入し、前田綱紀の書翰探訪の業を助け、侯の薨後遺世せんとしたが許されなかつた。寶曆五年七十二歳で歿。子孫藩に世襲する。

ミツシマホ 水島保 親元日記寛正六年九月二日に、『杉原伊賀守知行分水島保内末正名事東神主無故違亂申候旨云々。』とある。今石川郡に水島と未正とがある。

ミツシマタゴロウ 水島又五郎 白山本宮の大宮司。三宮古記に『白山御遷宮、文保三年己未三月廿九日亥時聖人地。』知足院播磨善義瀧水色、御シツク大宮司水島又五郎』とある。

ミツシマモリノフ 水島守信 白山本宮の大宮司。備前三郎と稱した。白山比咩神社所藏舊記に、『延文貳年丁酉十一月十六日夜御本社並荒御前社御遷宮奉成候。聖人尊性坊上總公察詮^{生年十}、助師光學坊播磨公光雅^{生年四}、瀧水役同勤之、御紙燭役二人、一人は水島備前三郎守信大宮司^{生年二}、寺井彦三郎民部大夫上道氏高^{生年十}』と見える。

ミツシロ 水白 ↓ミジロ 水白。

ミツセ 三ツ瀬 能美郡海郷に屬する部落。郷村名義抄に此の村領を流れる大日川に大石が三つあつたから、三ツ石村といふたのが變じたのであると記する。併し正保・寛文・貞享の高辻帳には三ツ瀬村とある。

ミツタキ 水瀧 珠洲郡上(部落名)の内の小字。

ミツタニ 三ツ谷 能美郡牛首(今白峯)の内の小字。

ミツタニ 三ツ谷 ↓ミツヤ 三ツ谷(能美、輕海郷)

ミツタニガハ 三ツ谷川 越前と能美郡との界なる赤鬼山(地圖赤鬼山)から發するもので、北流し、牛首川の左岸に於いて朝宗する。合流地點の對岸は即ち赤岩の部落である。

ミツタマル 水田丸 江沼郡四十九院谷に屬する部落。江沼志稿に載せた奥山遊覽記に、水田丸のことをいうて『あたりの山を崩し、池を埋めんと計りしに、山の下より長八尺許の男女の死體多く出し故、皆知元埋置きたりと所の者語りぬ。』とある。横穴古墳を破壊したものに見える。又茂徳紀聞に、この領根林山に神木と稱へる紅白の櫻が二株あつて、その花の咲き滿つる時は豊作と傳へるとある。

ミツタマルイシ 水田丸石 江沼郡水田丸に産する石材。石英粗面岩質凝灰岩で、灰白色石基中に草色物質の斑紋があり、蛙目で硬い。

ミツタメオカチマチ 水溜御歩町 金澤の舊町名。舊記には新堅町御徒町とある。油車御歩町と混ぜぬために水溜御歩町と呼んだもので、歩士の邸地であり、町内に水溜堀があつた。今は水溜町といふ。

ミツタメマチ 水溜町 ↓ミツタメオカチマチ 水溜御歩町。

ミツナガ 光長 加賀の刀工。加州富借住人藤原光長建武元年と銘じ、又富借を富樫とも切る。

ミツナシザカ 水無坂 白山々中の尾添からの登路にあつて、凡そ一軒の間砂礫礮河、草木なく、又滑滴をも得ることができぬ。